

障害ある学生 15%増、入試や授業支援拡充 大学・短大など

大学や短大、高等専門学校に 2012 年 5 月時点で在籍する学生のうち心身に障害を持つ学生は 1 万 1,768 人で、前年より 15% 増えたことが日本学生支援機構の調査で分かった。調査を開始した 2005 年に比べると 2.2 倍になる。同機構の担当者は「入試や授業での支援が拡充したほか、障害がある学生の把握が進んだ」と分析している。

調査は国公立の大学や短大など計 1,197 校を対象に実施。障害者手帳などを持っていたり、健康診断で障害があるとされたりした学生を集計した。障害のある学生が在籍する大学は全体の 66% の 793 校だった。

障害の種類別では、心臓などに機能障害を持つ病弱・虚弱の学生が最多で 2,570 人だった。肢体不自由が 2,450 人、発達障害が 1,878 人で続いた。聴覚・

言語障害は 1,488 人、視覚障害は 694 人、精神障害など「その他」は 2,425 人だった。

授業で障害者を支援している大学は 50% の 601 校で、2005 年の 206 校（20%）から増えた。点訳や手話通訳、授業の内容を要約して伝えるノートテークなど障害に応じた配慮をしている。入試でも試験時間の延長や、面接や書類での選考など支援が広がっている。

専門委員会を設置するなど組織的に支援策を検討しているのは 65% の 783 校だった。同機構は大学間でネットワークをつくり、支援ノウハウを共有する仕組みづくりを始めている。文部科学省も昨年有識者会議で、相談窓口設置やバリアフリー化を進めるよう全国の大学や短大に通知した。

（日本経済新聞・東京（夕刊） 2013 年 4 月 17 日）